

令和7年度第2回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和7年11月7日（金）午後2時～午後3時30分

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

（委員）館委員長、本多副委員長、林委員、井上委員、花村委員、遠藤委員、
高橋委員、鈴木委員

（事務局）中央図書館長、生涯学習課職員、中央図書館職員5名

4 傍聴人 2名

5 議題

報告事項

- （1）令和7年度上半期利用統計及び事業報告について
- （2）令和7年度図書館自己点検評価について
- （3）（仮称）子ども・子育て支援複合施設基本計画（概要）について

6 議事の概要

報告事項

- （1）令和7年度上半期利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。
- （2）令和7年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。
- （3）（仮称）子ども・子育て支援複合施設基本計画（概要）について、事務局より報告を行った。

その他、事務局より今後の行事予定について案内を行った。また、委員より情報提供及び図書館運営等に関する意見が表明された。

7 会議経過

報告事項

- （1）令和7年度上半期利用統計及び事業報告について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（委員）個人貸出の利用者数と貸出冊数が減少しているのは、全国的な傾向ではあるが、分館のうち日の出分館の利用者数と視聴覚資料の貸出点数が大きく減少している理由は。

（事務局）日の出分館は利用数が多いため、大きく減少したように見えるが、減少率では0.9%である。個人貸出の館別増減については、分館は地域に密着しているため、

集合住宅ができたりイベントがあつたりすると影響を受けやすい。下半期に向けて分析を進める。

(事務局) 視聴覚資料の貸出については、各館で資料を巡回して活用しているため、その影響があるかもしれない。日の出分館では、視聴覚資料の貸出が令和6年度に前年度比で170点増加しており、その反動もあると考えるが、引き続き注視していく。

(委員) 利用者による蔵書検索の件数で、図書館内の検索機の件数は減少しているのにインターネットでの件数が増加している。その理由はどう分析しているか。

(事務局) スマホからの検索が増えているのが要因である。

(委員) 検索エンジンがWeb上のページから自動的に情報を収集するプログラムの影響で、実際の検索数と齟齬が生じる可能性がある。アクセスログを確認し、継続的評価に支障が出ないようにしていただきたい。

(委員) 障がい者サービスの利用者数は増えているのか。

(事務局) 登録者数については横ばい状況が続いている。宅配や来館貸出等の実利用者数については減少傾向にあるが、利用者の体調等も影響している。

(委員) 対面朗読サービスは図書館に来ないと受けられないという点が、利用者にとっては負担になっている。県立図書館ではオンラインでの遠隔対面朗読を開始した。国立国会図書館では、視覚障がい者等が自宅でデータをダウンロードするサービスも行っている。また、パソコンやスマホの読み上げ機能の精度も高くなっているので、将来に向けてのサービスのあり方を検討されてはどうか。

(委員) 集会事業の実施事業数と開催回数が減少しているが、どのような視点で整理したのか。

(事務局) 減少の主な要因となったのは、ファブスペースのイベント及び乳幼児向けのイベント数の減である。ファブスペースは令和5年度末に開設し、実質的なサービス開始は令和6年度となったため、令和6年度、土日はほぼ毎週、イベントを開催し周知に努めた。利用者が増加した結果、個人利用による機器使用時間が増えたため、令和7年度はイベントの回数を見直した。児童向けのイベントは、乳幼児向け行事「赤ちゃんとしむわらべうたの会」を、「赤ちゃんとしむえほんのじかん」と統合した。事前予約を不要とし、児童フロアでの開催に移行したことで、より参加しやすい行事になったと考えている。

(委員) 新規登録で市外が在勤・在学・その他と分かれているが、「その他」はどのような登録者であるのか。

(事務局) 市外利用者のうち、在勤・在学以外、市川市行徳支署管内在住の方を「その他」としている。

(委員) 浦安市を訪れる観光客のうち、長期滞在するインバウンドもあり、図書館を利用しようと思う方もいると思う。図書館においても浦安のすばらしさをアピールするのも必要な施策ではないか。

(事務局) ディズニーリゾートに興味のある市外在住の高校生が、継続的にレファレンス室を利用している例がある。その様子がテレビ番組にも取り上げられ、その反響か、

関連書架を訪れる方が増えた。図書館職員が関連資料について相談を受けるシーンも放映され、中央図書館のPRになったと考える。

(委員) 貸出等に関して、目標値は定めているのか。上半期で市民1人当たり4冊の貸出は高い数値なのではないか。来館者数は増えており、貸出以外のサービスも含めての場の提供として評価できるのではないか。

(事務局) 個々の目標値設定はないが、生涯学習推進計画等の計画事業において、目標値を設定しているものもある。市民1人当たりの貸出数が年間約8冊というのは、全国的に見ると高い数値である。来館者数については、令和2年度のリニューアル以降、増加を続けている。大規模改修のコンセプトは、市民が利用したくなる居心地の良い図書館であり、滞在型の図書館を目指した。レファレンス室や学習室の利用も多く、ファブスペースも含め、さまざまな使い方をさせていただいており、目指している方向で推移していると考ええる。

(委員) 団体貸出の団体とはどのようなものか。

(事務局) 団体貸出とは、学校、園、児童育成クラブ、病院等への貸出である。団体貸出を実施することにより、多種多様な資料を子どもたちに提供できる。

(委員) 民間団体の登録はあるのか。

(事務局) 民間団体としては、特別養護老人ホーム等の登録がある。

(委員) 調査閲覧席の利用が増加している理由は。

(事務局) 滞在型の利用が増加しており、調査閲覧席の需要も高まっていると考える。

(2) 令和7年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(委員) Eレファレンスについて、件数は増加しているか。

(事務局) 令和6年度44件、令和7年度上半期19件である。

(委員) PRを行って、もう少し増やせるとよい。

(3) (仮称)子ども・子育て支援複合施設基本計画(概要)について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見(質問)は次のとおり。

(委員) ゾーニング図にあるブックストリートとはどのようなものか。

(事務局) 1階から中2階、2階にかけてスロープを造り、横に書架を設置し、展示等を行うものである。

(委員) 基本設計前に親子を集めてワークショップを開催し、意見を反映した経緯があった。現在の計画で修正を加えた点はどこか。

(事務局) 図書館部分については変更はほとんどなく、子育て支援機能部分を加えたものである。

(委員) 現在の担当課は中央図書館を含め5課であるが、開館後はどのように運営する

のか。

(事務局) 開館後は、子ども図書館及び日の出分館は中央図書館が運営することになる。親子の広場、一時預かり、相談室については他課で運営する。

(委員) 閉架書庫 10 万冊の内容は。

(事務局) 中央図書館の閉架にある児童書や、団体用図書等に移管する計画であるが、詳細は未定である。

(委員) 市HPに（仮称）浦安市子ども図書館基本構想策定に向けた市民意識調査の概要が掲載されており、とても参考になった。子ども図書館へのニーズを把握するために実施された調査であるが、本を読まなかった理由として「読みたい本がないから」が挙げられていた。利用者のニーズに合った本を所蔵してほしい。不読率の改善を期待している。

(委員) 子どもたちが読みたい本は、図書館にきっとある。でもわからない、聞けないのだと思う。

(事務局) 自分がどんな本が好きで、おもしろいと思うのかを知っている人は、子どもに限らず少ない。そうした本との出会いを手助けするのが司書であり、子どもたちと本の間に必ず司書が入り、本を手渡す手伝いができる図書館を、今まで通り目指していきたい。

(委員) ハード先行になるが、結局はソフト、人が肝要となる。その点においても、子ども図書館には大いに期待している。

その他、事務局より今後の行事予定について案内を行った。また、委員より以下のような情報提供及び図書館運営等に関する意見が表明された。

(委員) 舞浜公民館についての進捗状況と、オープン時期は。

(事務局) 工事業者が決定した。オープンは令和9年度中の予定である。

(委員) 子ども図書館と同時並行での開館準備は大変だと思うが、頑張ってもらいたい。

(委員) 学校ではタブレットでの調べものがメインとなって来ており、本離れをくいとめることの難しさを感じる。

(委員) 子どもが本を読む時間が、習い事などにより取れなくなっている。本に興味がないのではなく、本の楽しさを知らない子、気づいていない子もいると感じる。滞在型の図書館を目指すことは、そうした子どもたちにとって良いきっかけとなる。

(委員) 宮城県名取市の図書館を訪れたが、駅からのアプローチが良く、カフェやオーディオブースもあり、子ども用スペースも楽しい造りとなっていた。旅先で図書館を訪れることをおすすめしたい。

以上